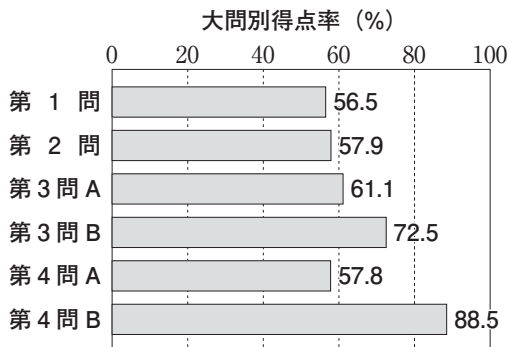
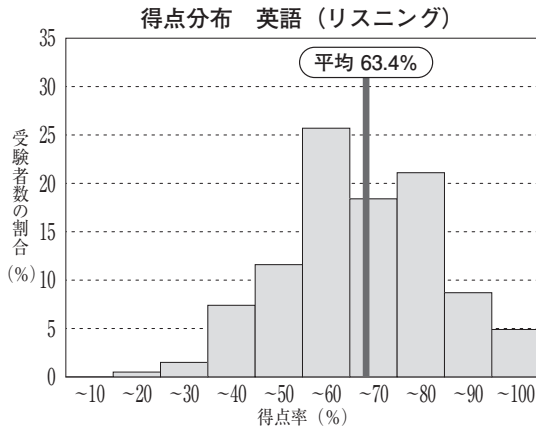


英語 (リスニング)

得点力向上のために自分に何が必要かを把握しよう。

I. 全体講評

今回初めてセンター試験本番レベル模試を受けた人たちは、まず試験の特徴をよく知ってほしい。そして、筆記問題と同様、リスニング問題の出題形式やレベルに早く慣れ、徐々に得点力を向上させてもらいたい。今回の受験学年の平均得点は31.7点で、得点分布は下のグラフのようになっている。全体の得点率に換算すると約63%で、まずまずの出来であった。大問別に見ると、最高が第4問Bの88.5%、最低が第1問の56.5%であった。かつての第4問Bは長い説明文を素材として、内容も複雑だったため、これほどの得点率に達するのは稀であったが、日常的な会話文を用いるようになったことで、受験生には対処しやすくなったと言えるかもしれない。正解を得られなかった問題については、



解説を参照しながら、つまづいた理由をはっきりさせておくようにしましょう。

II. 大問別分析

第1問 対話の聞き取り (数値・語句・イラスト選択)

大きな課題となりうる数値の聞き取り!

第1問の得点率は56.5%で、平均的な成績であった。ただし、小問別正答率を見ると、30%台と40%台が2問ずつ、80%台がやはり2問と大きな偏りが見られた。第1問は短い会話文を素材としていて、リスニングの基礎力を測るのに適しているが、その中にイラストと数値に関する問題が含まれるのが特徴である。今回の場合、問2の正答率が最も低かったわけであるが、これは時間表現の形をとった数値問題である。このタイプの問題で注意すべきは解答のために簡単な計算を求められることである。簡単な計算とは言え、耳で聞いて瞬時に判断するにはかなりの訓練が必要だということがわかるだろう。イラスト問題と並ぶトリッキーな要素なので、過去のセンター試験でどのような出題例があったかを十分把握しておこう。

第2問 対話の聞き取り (応答文選択)

ちょっとしたイディオムが差を生んだ!

適切な応答文を選んで、会話文を完成させる問題。今回の第2問の得点率は57.9%だった。小問別の正答率では70%台、80%台に達するものがある一方、20%に満たない問題も1つあり、かなりの差があった。正答率が最も低かったのは問10である。たくさん残っているはずのクッキーについて、話者が「ジョンが勝手に食べてしまった」と答える場面であるが、ポイントとなる help oneself to ~ (～を自由にとって食べる) というイディオムを知っているかどうか問われている。

第3問A 対話の聞き取り (質問に対する答えの選択)

文脈全体から発言の意図をつかむようにしましょう。

短い対話文に基づくオーソドックスな内容一致問

題。今回の第3問Aの得点率は61.1%とまずまずであった。小問ごとの正答率を見ても、50%~60%台で安定していた。だからと言って、決して軽視できる箇所ではない。今回最も正答率が低かった問14では、②の誤答を選んだ人が30%以上いたが、これは文の流れよりも、本文と選択肢に共通するpotatoという単語につられた結果にすぎないであろう。短い対話に基づく基本的な設問形式ではあるが、ここでは文全体の流れから話者の心理や意図をつかむように注意したい。

第3問B 長めの対話の聞き取り

冒頭から集中して聞き取るようにしよう！

第3問Bの得点率は72.5%とよくできていた。ただし、正答率の内訳を見ると、50%に満たない小問が1つあり、確実な力があるとは限らない。これは問17であるが、本文の該当箇所は冒頭部分にあった。漫然と聞き流してしまった人が多かったのかもしれないが、油断せずに最初から集中して聞き取るようにしてほしい。また、ここでは対話の長さも一気に長くなるので、聞きながら理解するスピードが求められる。間違えた箇所については、どこに原因があったかを各自で突き詰めてほしい。そして、今後はこの形式に十分習熟し、対応力を高めてほしい。

第4問A 長めの文章の聞き取り

述べられた事実のみを正確につかみとろう。

第4問Aはひとまとまりの英文を聞いて、内容一致問題に答える箇所である。今回の第4問Aの得点率は57.8%で、およそ平均的な成績であった。小問別の正答率を見ると、最後の設問が30%台にとどまり、これが足を引っ張った格好である。ここは、納屋を焼失した話者に対して、彼女が働くカフェの常連客が再建用に小切手を提供したというエピソードに基づいた設問である。そこで、過半数の人が①「常連客が彼女に新しい納屋を建ててやった」を選んだわけだが、本文はそこまで述べていない。類推をするのではなく、やはり事実のみを尊重すべきであった。第4問ともなると、聞き取る分量もさることながら、内容面でも複雑になる。その内容をいかに総合的かつ的確に把握できるかがポイントである。また、内容一致問題の性格上、本文と選択肢では同じ表現を避けるのがふつうである。こ

うしたことから、センター試験のリスニング問題では最も難しい箇所と言える。今回満足のいく成績を取れなかった人は、今後トレーニングを積みながら、対応力を高めていってもらいたい。

第4問B 長めの会話の聞き取り

最後の難関を見事にクリアできていた！

リスニング最後の問題である第4問Bは長い会話文を素材とした内容一致問題である。最後まで集中力を保つのは大変だが、今回の得点率は88.5%と非常によくできていた。今回の場合、学校の行事に関する生徒同士の会話という設定が、比較的身近に感じられて、フォローしやすかったという側面があるかも知れない。しかし、それにしてもこの結果は高く評価できるだろう。最後になって長い英文を聞き取らなければならないという条件の厳しさは変わらない。今後のトレーニングを続ける中で、問題に慣れると共に、ここ一番という時に求められる集中力を養って欲しい。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆英語の音に耳を慣らそう！

リスニング力向上の基礎はまず耳慣らしである。個別に取り出された単語の発音とは異なり、文単位の発音では、音の連続によって新たな音が生じたり、子音などが脱落する現象が多く見られる。これが、英語の聞き取りを難しくしている最大の理由の1つである。したがって、こうした英語の音の特徴に慣れるためにはできるだけ多くの英文を耳からインプットする必要がある。

また、読み上げ文はナチュラルスピードで読まれるので、理解のスピードが追いつかないというケースもある。これを克服するには、耳で聞いた英語を素早く理解するための訓練が必要である。そのために、音読を習慣としたい。音読をするスピードで英語を理解する訓練をすれば、「聞いて理解するスピード」も必然的に高まる。易しいもの、あるいは以前に読んだものでよいから、一定の速度で、読み返さずに前から一気に読み、意味をつかむようにするのである。速読力と聴解力は相乗効果を生むであろう。